

103号
No.1103

2013(平成25)年
11月1日

おととす
うさま
ひがりを
くはい
ひつた
あつたか
座ぶと
くのゆ
うなへ
きつを



相田みつを美術館
オリジナルカレンダより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666
FAX(072)692-0769

秋季・みんなの法話

さあ！報恩講の季節です！

「報恩講」は門信徒さんにとつて もつとも大切な法要



山はじめ、全国のお寺、一般家庭でも勤められます。

本山では、毎年聖人の御正忌（祥月命日のこと）。一月十六日）に合わせて一月

お寺の「報恩講」が近づくと、月参りの折

りなどに「〇月〇日に報恩

講が勤まりますので、ぜひお

参り下さいます」と勧めてい

ます。ですが、時たま信徒の方が

「報恩講で何ですか？」と尋ねられ、ガックリとくることがあります。「報恩講を知らずして、何の門信徒か！」と

内心思つたりするのですが、

そこは抑えて、報恩講がいか

が、その先祖の方々が心から

す。移動が激しく、核家族の多い東京や大阪などの都会では、報恩講を知らない門信徒の方が増えてきています。

報恩講は、浄土真宗のみ教えを開いて私たちにお示し下さった宗祖親鸞聖人の、そのご苦労を偲んで當まれる一年でもつとも重要な法要です。

慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われているのも先祖の方がたです。聖人のご恩に感謝し、聖人がお示し下さった如来さまのご本願を仰いで、お念佛申す

各お寺や家庭では、一般に本山の法要に先立って、年内に勤めるならわしで、そのため「お取り越し」とか「お引き上げ」と言われています。

人生を歩むのが私たち門信徒です。報恩講はそうした私たちにとって、何よりのご（ローソクは朱色）、法要後は精進料理のお齋（食事）を出したりします。



9月30日に仏教婦人会常例法座がお勤まりになりました。大畠先生に葬儀の意義についてお話いただきました

平成25年報恩講法要ご案内

◎十一月九日(土)

昼席 午後二時(逮夜)

夜席 午後七時(初夜)

◎十一月十日(日)

朝席 午前十時三十分(日中)

※朝席は仏教婦人会の御座。

その後総会

昼席 午後一時三十分(逮夜)

ご満座 本願寺布教使
ご講師 野村康治師(九日)
佐々木大照師(十日)

★年行司の方によります、お志の受付(帳場)は午後一時二十分よりしていただきます。

報恩講さんです!!

「忙しくて参る暇がない」という人は、暇があつても参らない。仏法はいのち

寿命との競争ですよ。

◎報恩講は、年に一度の親鸞聖人の法事です。そして親鸞さまと出遇う日)です。

◎報恩講は、私自身の「お葬式」です。古い私がエゴイズムの塊のかたまりの「地獄・餓鬼・畜生」を抱える私が…命終していくからです。

◎報恩講は、私自身の「誕生日」です。生きとし生けるものすべてに支えられ生かされていることに気づかされた、新たな私が生まれるからです。

除夜会ご案内

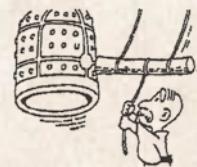
◎十一月三十一日(火)

午前一時過ぎまで

午後十一時三十分より

★深い静寂のなかに、「ゴーンゴーン」と殷々と響きわたる鐘の音は、そのまま阿弥陀さまの「お念佛せよ」とのお喚び声です。大晦日の夜、除夜の鐘を撞いて一年の仏事行事の締めくくりとして下さい。

お正月はお家族そろってご仏壇に慶びのお参りをいたしましょう。



報恩講法要に向か、本堂内陣床のリメイク作業を行っています。

住職のひとり言



◆三度目の秋になりました。福島原発事故から二年半。最近目にした言葉は「原発は自然破壊、環境破壊の極み」です。改めて福島の方々の苦しみに思いを馳せる。日本列島の大地にある五十四基もの原発と原子力関連施設。それは飽くなき欲望を追求する一方、自らをも滅亡破壊させる物質を抱え込んでしまった私たちの深い自己矛盾。しかしこの大きな闇の中で、光明を探していかねばなりません。

◆十一月、秋深き日々がようやく訪れて参りました。今年も報恩講の季節を迎えた。『報恩講』とは浄土真宗の宗祖親鸞聖人のお徳を偲んで営まれる真宗最大の法要です。わかりやすくいえば毎年行われる聖人の法事と思つて下さい。門信徒の皆さまはぜひ!このご縁に遇つていただきたい。お参りくださいませ。そして親鸞聖人に遇つていただき、また『私自身』にも出遇つていただきたいのです。『我が身』をさらけだしてください。日々愚痴・瞋恚・貪欲にまみれた我が凡夫の姿を改めて見つめ直すご縁となりますよう。

◆報恩講が近づいてきますと、この頃聖人のあるお言葉があり難く身にせまって参ります。「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案すれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり。さればそれほどの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」「歎異抄後序」(阿弥陀仏のお誓いをよくよく考えてみると、つくづくそれは自分ただひとりにむけての救いのお心であつた。思えば救いようのない罪を背負つたこの自分をたすけようと決意していただいたことは、なんともつたいたなくありがたいことであろうか)。阿弥陀さまに背を向けて生きている我が身であることを、私たち味わつていきたいものです。



個人情報により非表示にさせていただきます。
ご家族のお悲しみ、寂しさはいかばかりかと存じます。残された方々は、亡き父、亡き母、亡き夫、亡き妻、亡き子と今やつと向かい合い、お手を合わせお話ををして下さい。人は皆なげき、孤独、絶望、愛憎を超えてしかお念佛申し上げることはできません。この尊いご縁をいただき、報恩感謝のお念佛をいたしましょう。